

# 教材活用シリーズ 第 155 回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

この一冊で授業ができる！  
学習課題に基づき資料を配置した歴史教材

東京法令出版株式会社  
『たどってまとめる新歴史』



東京法令出版株式会社  
教育事業推進部  
松井 宙岳

2013 年入社。主な担当書籍『問いからはじまる歴史総合』、『読解ロジック』シリーズ、『春の 7 日間演習ハルナナ』、『ケーススタディ危険運転致死傷罪』など。



## 1. 制作の経緯

本書は、「この一冊で授業ができる」をコンセプトに開発した社会科副教材（資料集）に求められている要素は、資料の「網羅性」、あるいは統計・図版・地図などといった資料の「多様性」ではないでしょうか。言わば、副教材は図録や事典のような役割を担っており、教科書に記載していない資料がいかに掲載されているかということが、商品価値を測る上で大きな指標となっている（なってきた）ように思います。

しかしながら、網羅的に掲載された資料群のなかで、実際の授業で扱える資料はごく限られています。私たち編集者は、学校現場で繰り返し行ったヒアリングを通して、日々多忙を極めている先生方が、教科書や副教材の資料群を参照しながら、毎時間ゼロベースで授業案を作成することがいかに難しいことであるかを教えていただきました。また、このことは公民や地理を専門とされている先生や、地方の学校などで、お一人で社会科全般を受け持たれている先生にとって、輪をかけて切実な問題となっていることも伺いました。

## 2. 本書の特長

以上の経緯を踏まえ、冒頭で述べた「この一冊で授業ができる」を開発コンセプトとして打ち出し、制作を開始しました。「考察に必要な資料だけを掲載した教材」「それ自体が、授業の流れを表現するような教材」となるために、次のような特長を与えました。

### ① 「学習問題」（メイン・クエスチョン）

左の誌面を例にとりますと、はじめに、新航路開拓のための船旅がいかに過酷なものであったかを各資料から読み解きます（資料の随所に「ここに着目！」という角度づけを付しています）。

そこから、「なぜ命の危険があるにもかかわらず開拓に乗り出したのか」といった学習問題が導き出されます。これが、本時のメイン・クエスチョンとなります。

ここに着目！①  
新航路を開拓した3人の航路を確認してみましょう。

航海者	生没年	探検先
コロンブス	1451年 - 1506年	インド
マゼラン	1480年 - 1521年	インド
カブト	1447年 - 1499年	インド

学習問題  
なぜ、命の危険があるにもかかわらず、ヨーロッパの人々は新航路の開拓に乗り出したのだろうか？

### ② 追究(サブ・クエスチョン)

ただし、一足飛びにそのような大きな問いに答えることは難しいため、さらに問いを一段階掘り下げた「追究」を設置しました。

「学習問題」がメイン・クエスチョンであるのに対し、「追究」はサブ・クエスチョンにあり、左の例ですと、AからCまでの資料を「ここに注目！」の角度づけに基づき読み解くことで「学習問題」の解答の手掛かりを得ることができます。

このように、掲載されているすべての資料に角度づけがなされているため、すべての資料が流れのなかで必須であるという点が、従来の網羅型教材と異なる特長であるといえます。

**追究①**  
A・B・Cから、学習問題に対するまとめを考えよう。

**追究①**  
A・B・Cから、学習問題に対するまとめを考えよう。

**A コロンブスの航海日誌のまえがき 1900年**  
スペインの南陸下は……この私、コロンブスを、インディアス(インド)の地に派遣して、かの地の君主や、人民や、さらにその土地、その様子などを見聞して、彼らにキリスト教徒に改宗させる方法について考えるように命じられた。……  
(林屋永吉訳『コロンブス航海誌』 岩波文庫)

**B 貿易関係の変化**  
大航海時代以前 → 大航海時代以降  
大航海時代以前: 香料(胡椒)の産地(インド) → 香料(胡椒)の消費地(ヨーロッパ)  
大航海時代以降: 香料(胡椒)の産地(インド) → 香料(胡椒)の消費地(ヨーロッパ) + 香料(胡椒)の産地(インド) → 香料(胡椒)の消費地(アメリカ)

**C 香辛料の魅力**  
16世紀初めのリスボンでの価格(50.8kgあたり) \*\*価格単位はクルザード(『朝日百科世界の歴史67』)

香辛料の種類	こしょう	クローブ	シナモン
購入価格+船賃	6.08	10.58	6.58
販売価格	22	60~65	25
利益率(%)	261.84	467.11~514.37	279.94

**ここに注目①** コロンブスは、だれに依頼され、どんな目的で、どこへ行ったのか読み取ろう。

**ここに注目②** 大航海時代の前後では、貿易はどのように変化したのだろうか。

**ここに注目③** ヨーロッパでは、こしょう・クローブ・シナモンなどの香辛料は、どんなものだったのだろうか。

### ③ まとめめの視点

このような「追究」を何度か行った後、誌面の最後で「まとめめの視点」に到達します。

左の例では、①の解答として「先住民の国を滅ぼし、鉱山を開発し、アフリカ大陸から連行した奴隷を従事させた」、②の解答として「東インド会社を設立し、アジア貿易を独占した」といったことが導かれます。

これを踏まえ、改めて「なぜ命の危険があるにもかかわらず開拓に乗り出したのか」という学習問題について考えますと、「新たな貿易市場や資源を求めたため」という答えが見えてくると思えます。書名のとおり、資料を「たどって」「まとめめる」ことで、本時の学習問題に対して

### 2 インディオの減少と黒人奴隷

**追究②**  
新航路の発見により、世界はどのように変化したか調べてみよう。

**A アメリカの古代文明の特色**  
① トウモロコシ・ジャガイモなどを栽培  
② 金・銀・青銅器を使用  
③ 太陽神を崇拝  
④ 穀・黍などの大型家畜は存在しない

**B 征服者の活動**  
① アステカ王国を征服するコルテス(スペイン人)  
② このころのアメリカ大陸ではアステカ五国(現在のメキシコあたり)とインカ帝国(現在のペルーあたり)が栄えていました。文字をはじめ、金細工、石の建築技術、独自の膨大な高度な文明を築いていました。

**C 征服されたアステカ王国・インカ帝国**  
① 鉱山で働く先住民  
② 征服された先住民(インディオ)たちは、鉱山での労働を強いられました。

**まとめめの視点**  
① 新大陸アメリカに進出したスペインとポルトガルの支配の様子についてまとめよう。  
② アジア貿易をおこなったオランダの動きについてまとめよう。

する答えを得ることができました。

### 3. 活用方法について

以上が、本書の構成上の特長です。  
ご活用のバリエーションとして、複数の「追究」(サブ・クエスチョン)をグループ毎に受け持ったり、ジグソー方式で授業を行ったりといった方法もご提案いたします。

また、ご採用校にはクラウド上でワークシート(Googleフォーム、Word、PDF)を数点ご提供しております。ワークシートには「学習問題」「追究」「まとめめの視点」の問いがあらかじめ記載されており、生徒たちが解答を記入することができます。また、学習結果をスプレッドシートに残すこともできます。さらに、編集が可能ですので、先生のお好みに応じて問いの文言を変更することもできます。

### 4. 結びに

本稿の結びに、是非本書の表紙を紹介させていただきたいと思えます。ご覧のとおり、銀河のなかに乳白色の煙を吐きながら進む、一台の機関車が描かれています。この機関車は、古代から現代に至るまでの「歴史」を「たどる」乗り物をイメージしています。また、可能性を抱いて未来へ向かう子どもたちそのもののメタファーでもあります。  
本書が、全国の多くの学校現場で活用されることを心から願っております。